

# 臼杵市水道事業経営戦略

平成 29 年度  
臼杵市水道事業所

## 水道事業 経営戦略 目次

### 第1章 経営戦略の策定について（P1～P2）

1. 策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・P1
2. 経営戦略の位置づけ・・・・・・・・P1～P2
3. 経営の基本方針・・・・・・・・・・・・P2
4. 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・P2
5. 経営戦略の事後検証、更新について・・・P2

### 第2章 水道事業の概要と現状（P3～P9）

1. 事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・P3
2. 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・P4
3. 料金体系・・・・・・・・・・・・・・・・P5
4. 組織体制・・・・・・・・・・・・・・・・P5
5. これまでの経営概要・・・・・・・・P6～P9
  - ①給水人口及び水量の推移・・・・・・・・P6
  - ②給水収益の推移・・・・・・・・・・・・P6～P7
  - ③給水収益と費用の推移・・・・・・・・P7
  - ④企業債償還金の推移・・・・・・・・P8
  - ⑤企業債残高の推移・・・・・・・・・・・・P8
  - ⑥経営比較分析表による分析・・・・・・・・P9

### 第3章 今後の課題と対策の検討（P10～P27）

1. 将来の事業環境（P10～P11）
  - ①給水人口の推移・・・・・・・・・・・・P10
  - ②有収水量の推移・・・・・・・・・・・・P11
2. 収支計画の概要（P11～P17）
  - i. 収支計画（収益的収支）の見通し（P11～P15）
    - ①給水収益の推移・・・・・・・・・・・・P11～P12
    - ②主な費用の推移・・・・・・・・・・・・（P12～P15）
      - イ）経費全体・・・・・・・・・・・・P12
      - ロ）動力費・・・・・・・・・・・・P13
      - ハ）修繕費・・・・・・・・・・・・P13～P14
    - 二）減価償却費・・・・・・・・・・・・P14
    - ホ）支払利息・・・・・・・・・・・・P15
    - ヘ）職員給与費・・・・・・・・・・・・P15

- ii. 収支計画（資本的収支）の見通し（P16～P17）
  - ①建設改良費の推移・・・・・・・・・・P16
  - ②企業債償還金（元金）の推移・・・・・・・・P16～17
  - ③企業債残高の推移・・・・・・・・・・P17
- iii. 今後の経営状況（P18～P19）
  - ①将来の収支見込み・・・・・・・・・・P18
  - ②料金体系のあり方・・・・・・・・・・P19
- 3. 経営健全化の取組（経営の課題と対策）（P20～P27）
  - ①簡易水道事業との統合（P20～P21）
  - ②財源の確保（P22～P23）
    - イ）給水収益・・・・・・・・・・P22
    - ロ）企業債の活用・・・・・・・・・・P22
    - ハ）他会計繰入金・・・・・・・・・・P23
    - ニ）資産の活用・・・・・・・・・・P23
    - ホ）その他・・・・・・・・・・P23
  - ③費用の抑制（P23～P24）
    - イ）人件費・・・・・・・・・・P23～P24
    - ロ）動力費・・・・・・・・・・P24
    - ハ）委託料・・・・・・・・・・P24
    - ニ）その他・・・・・・・・・・P24
  - ④施設の更新（P25～P26）
    - イ）浄水・配水施設の更新・・・・・・・・P25
    - ロ）管の更新・・・・・・・・・・P25
    - ハ）耐震化・・・・・・・・・・P26
  - ⑤技術の継承（P26）
  - ⑥その他の取組（P27）
    - イ）民間の資金・ノウハウの活用に関する事項
    - ロ）広域化に関する事項
    - ハ）施設・設備の更新に関する事項
    - ニ）防災対策に関する事項

●用語解説（P28）

## 第1章 経営戦略の策定について

### 1. 策定の趣旨

水道は地域の生活や経済活動にとって不可欠なライフラインであり、地域の発展とともに水道事業も歩んできました。そして今、水道を取り巻く環境や経営状況は大きく変化し、新しい時代に相応しい水道の再構築が求められています。

本市の上水道事業は、昭和10年(1935)1月2日に創設認可を受け、翌年3月に野田浄水場から給水を開始しました。その後平成17年1月に野津町との新設合併により新臼杵市として一本化して行っているところです。

本市では、これまで重大な水道事故等もなく、地域住民への安心安全な水の供給を安定的に行っていますが、近年全国的にも顕著な問題となっている施設や水道管の老朽化、少子高齢化の進行、環境意識の高まり、さらに節水型社会の進展による水需要の長期的な減少による給水収益の減少など、今後の経営環境は厳しさを増していくことが想定されます。

また、国は事業規模が小さく経営基盤が脆弱である簡易水道を、地域住民に対するサービス水準の維持向上、財務基盤の強化を目的に平成28年度までの事業の統合・広域化(上水道事業との統合)を推し進めていました。

本市においても、平成21年度末に簡易水道統合計画を策定し、上北簡易水道の整備終了後に市営の簡易水道全てを平成28年度末に統合する予定としていました。しかしながら、水道事業における給水収益の減少に加え、施設老朽化に伴う更新費用の増加により厳しい経営状況となり、現在まで統合に至っていない現状にあります。

また、一方で国が進める公営企業会計の法適化の推進事業の一つに簡易水道事業があげられており、平成27年度から平成31年度までの5年間を集中取り組み期間としています。

本市においても、この計画期間内に残りの簡易水道について統合を行い、それを以て法適化とする予定です。

以上のように、本市の水道事業は大きな転換期を迎えており、今後も引き続き安定給水を永続的に実行していくためには、より中長期的な視点から将来にわたって給水の安全性、安定性を確保し、持続可能な水道経営を行っていくことが求められています。

このことから、今後の水道事業の方向性を明示し、持続可能な水道事業の実現に向け、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定し、市民に対し安心・安全な水を安定的に供給し、健全経営を持続できるよう事業運営の指針とします。

### 2. 経営戦略の位置づけ

平成26年8月29日付総務省通知「公営企業の経営にあたっての留意事項について」にて、施設等の老朽化に伴う更新投資の増大、人口減少に伴う料金収入の減少等により、公営企業をめぐる経営環境は厳しさを増す中で、引き続き公営企業として事業を行う場合には、自らの経営等についての確かな現状把握を行った上で、中長期的な視野に基づく計画的な経営に取り組み、徹底した効率

化、経営健全化を行うことが必要であり、そのために、各公営企業において、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むこととされています。

この「経営戦略」は、中長期的な事業運営の指針として、臼杵市水道事業が進むべき方向性を取りまとめたものです。水道経営における主要施策や予算に反映させることとし、維持管理費や建設投資の適正化、使用料金体系の見直しの指針とするものです。

### 3. 経営の基本方針

本市の水道事業は、各地区が持つ地区水道を吸収しながら水道事業として発展してきました。そのため拡張にかかった費用も大きく、加えて施設数も多くなっています。また、施設の老朽化等で維持管理にかかるコストも高くなっています。しかし、今後給水人口は減少し、給水収益も減少していくことが考えられます。

このことから、本市の水道事業の規模に見合った施設の管理とそれに伴う経営の健全化、及び安心安全な水をこれからも安定して供給しつづけることを経営の基本方針とします。

### 4. 計画期間

平成30年度～平成39年度(10年間)

### 5. 経営戦略の事後検証、更新について

水道事業については、施設の機械等の修繕など突発的に起こる故障などを先延ばしすることができないため、この経営戦略は毎年度見直しをし、その都度事業の精査を行います。

また、決算と経営戦略のかい離を確認し、より実効性の高いものとなるよう検証していきます。